

# レポートの書き方講習会

2016/6

芸術文化学部 奥 敬一

1

# レポートとその仲間達

2

- ⑥ 報告 ……とにかく事実を正確に淡々と記載する  
(プラス若干の自分の解釈)
- ⑥ 小論文、論考 ……先行研究と事実をもとに  
自分の考えを論理的に主張する
- ⑥ 卒業論文、修士論文
- ⑥ 学術論文 ……世の中に新しい  
知見を提供する
- ⑥ 書籍

3

## 客観性

自分の思い、自分の経験だけで書かない  
事実を正確に記録したデータや、  
すでに認められている主張から出発する

## 論理性

「当たり前」の事柄を積み重ねていく  
なぜそうなるのか、誰でも納得できるような理由

4

# レポートの構造と作法

5

## 基本的な構成

- ⑥ タイトル
- ⑥ 取り上げるテーマ
- ⑥ 明らかにしようとする問い
- ⑥ 問いに対する仮の答え (仮説)
- ⑥ 問いに答えるための方法
- ⑥ すでにある研究、知見からの証拠
- ⑥ 自分で集めたデータからの証拠
- ⑥ 問いに対する答え
- ⑥ 結論
- ⑥ 引用・参考文献

6

## 目次（見出し）の一例

第1章 研究の背景と目的	第3章 結果
(1) 研究の背景	(1) ○○○のxxxについて
(2) 既存の研究	(i) △△の分析
(3) 研究の目的	(ii) □□の分析
	(2) ☆☆☆と◇◇◇の比較
	(i) . . . . .
第2章 方法	第4章 考察
(1) 対象の概要	(1) ○○の△△
(2) 調査方法	(2) 今後の課題
(3) 分析方法	引用文献

7

## レポート・論文の作法

- 構成や表現、文体には、だいたい分野（流派？）ごとの作法がある →これはそれぞれの分野で慣れるしかない
- 懇願、お世辞、言い訳を盛り込むのは不作法
- ただの感想文も不作法
- 最大の不作法は「盗用」

8

## 盗用・剽窃・コピペ

- 絶対ダメです
- 不正行為は、当該科目の「不可」にとどまらず、すべての履修科目が無効となり、停学、卒業延期などの処分が科されます

9

## 引用の作法

- 引用されるのは、公表された著作物であること
- 引用部分と自分の著作部分が、はっきりと区別されていること
- 自分の著作物が主で、引用された著作物が従の関係にあること
- 引用する正当な目的がある、あるいは、引用の必要性・必然性があること
- 出典・出所がきちんとわかるよう明示されていること
- 著作者の意思に反する改変をしないこと

10

## レポートのTips

## 構想編

- いきなり文章を書き始めない  
→「執筆構想メモ」から始める  
研究ノート的重要性
- タイトルや見出しを疑問文（の組み合わせ）  
にしてみる →疑問文とかみ合う文章が書けているか  
常に意識する
- あれもこれも詰め込まない  
→主張したいこと、主張できることは  
せいぜいひとつ、ふたつ

11

12

## 資料収集編

- ④ ネットはフル活用せよ  
→CiNii、J-stage、電子ジャーナル、行政情報（中央官庁、都道府県、市町村等）、Wikipediaも
- ④ その上で、図書館、資料館、本屋もフル活用する
- ④ 資料代はケチらない
- ④ 「奥付」は必ず記録する  
→忘れがちだけど、後でとても困ります

13

## 執筆編

- ④ 表現に技巧はこらさなくてよい
- ④ 自分がわからない、説明できない言葉は使わない →きちんと理解した言葉を使うこと
- ④ 同じ意味の言葉は、同じ言葉で書く
- ④ 図表を有効活用する →アイデアの整理にも有効

14

## 執筆編

- ④ 「事実」と「自分の考え」は明確にわかる
- ④ 固有名詞、専門用語は正しく使う
- ④ ムダは削る ←他人に削ってもらおう
- ④ できれば、少し寝かす

15

## 事前・日常編

- ④ 基礎知識の引き出しを持っておく  
→授業には必ずヒントがある  
時事にも関心を
- ④ 短い論文・論考をたくさん読む  
→CiNiiやJ-stage、先生の持っている学術誌
- ④ 論文を分解してみる  
→他人の論文から、見出しと各段落の  
箇条書きを抜き出す
- ④ 文体、構成、表現をまねて、自分で手を動かして書いてみる →論文の表現作法が身につきます

16

## レポート？の実例

## 最近書いた原稿の事例

- ④ お題：地域の魅力を発見し、その資源化を探求する人材養成について
- ④ 字数約5000字（約5ページ）
- ④ 締め切り2ヶ月後

17

18

## 構想

- ④ (読者層を考えます)
- ④ そうだ、「キュレーションコース」のことを書こう
- ④ お題を疑問文に分解する  
キュレーションって何だ？  
キュレーションが扱う地域の「資源」とは？  
実例はあるのか？  
どうやって養成する？

19

## 資料集め

- ④ キュレーションって何だ？ →専門の先生に適切な本を教えてもらおう
- ④ キュレーションが扱う「資源」とは？  
→以前読んだ本に「資源論」のことが書いてあったなあ

20

## 資料を元に、メモ、図を作る

- ④ キュレーションって何だ？ →文献から定義に関する部分を抜き出す
- ④ 「資源」とは？ →文献に書かれている「資源」の捉え方・考え方を元に、自分なりに理解した図にする

21

## もう一回資料集め

- ④ 実例はあるのか？ →これまで見聞きしてきた経験をもとに、「検索」をフル動員 →学術雑誌の記事や一般向けの雑誌がヒット
- ④ どうやって養成する？ →ここはまだ具体的な実例が少ないので、自分の考えを

22

## 骨格 [アウトライン] を作る

- ④ 見出しをならべる
- ④ 資料からとったメモを適切な場所に配置する
- ④ メモや図を元に、書きたいことを箇条書きにする →書けるところから書く
- ④ 箇条書き単位で入れ替えて、話がつながるようにする
- ④ ひとつひとつの箇条書きが「段落」になることを意識する

23

## 文章化する

- ④ 箇条書きが十分にたまって、一通りつなげて「論」ができそうになったら
- ④ いよいよ執筆
- ④ 箇条書きをていねいな文章に直し、適切な接続語でつないでいく
- ④ 誤字脱字をチェックし、少し寝かせて見直して、直すところがなくなったら提出

24

## 参考になる文献

25

- ⑥ 戸田山和久「新版 論文の教室 レポートから卒論まで」NHK出版、2012年
- ⑥ ウンベルト・エコ「論文作法」谷口勇訳、而立書房、1991年・・・人文、哲学系向き
- ⑥ ハワード・S・ベッカー「ベッカー先生の論文教室」小川芳範訳、慶応義塾大学出版会、2012年・・・社会科学系向き

26

- ⑥ 小林康夫・船曳建夫編「知の技法」東京大学出版会、1994年・・・思考構成の手本として
- ⑥ 木下是雄「理科系の作文技術」中公新書、1981年・・・理系、実験科学向き
- ⑥ 酒井聡樹「これから論文を書く若者のために究極の大改訂版」共立出版、2015年・・・理系向き、さらに学術論文に挑戦する人へ

27

- ⑥ 池田真治「レポート・論文の書き方：入門（第2版）」富山大学学術情報リポジトリ、2013年 <http://hdl.handle.net/10110/12294>  
・・・今日の講習会にあたって参考にしました

28